

# 稲畑産業

稲畑産業は、2017年度から20年度を最終年度とする4力年の中期経営計画をスタートする方針だ。詳細は今後詰める考えだが、過去の中計で積み上げてきた実績を基に成長市場および未開拓分野への注力や、海外展開の拡大・深化に引き続き取り組んでいく。

に備えて今後、関連材料の供給に向けた準備を進めていく。

単価ダウンの影響を受けているが、需要面では自動車向けを中心に好調に推移している。

合成樹脂事業は全体では単価ダウンの影響を受けているが、需要面では自動車向けを中心に好調に推移している。

生活産業事業では、医薬品の有効成分を製造する仏ファルマサンテでリストラを実施しており、すでに業績が回復傾向にある。低分子薬の需要が減少していることから、近年新テーマとして化粧品分野を対象に、美白や保湿に効果がある有効成分の開発に注力しており、アジア市場での展開を強化する。またiPS細胞（人工多能性幹細胞）など先端医療への対応も計画しており、そのビジネスモデル構築を模索していく。

生活産業事業では、医薬品の有効成分を製造する仏ファルマサンテでリストラを実施しており、すでに業績が回復傾向にある。低分子薬の需要が減少していることから、近年新テーマとして化粧品分野を対象に、美白や保湿に効果がある有効成分の開発に注力しており、アジア市場での展開を強化する。またiPS細胞（人工多能性幹細胞）など先端医療への対応も計画しており、そのビジネスモデル構築を模索していく。

同社の上半期の業績は円高の影響を受け減収減益となった。ただ販売数量はおおむね堅調に推移しており、為替の問題を除くと売上高、営業利益とも微増となる。

同社は情報電子事業において、第1本部でFPD（フラットパネルディスプレイ）、LED（発光ダイオード）関連、第2本部でプリンター、OA機器関連、第3本部で新エネルギー関連の各商材を取り扱っている。FPD関連材料に次ぐ新テーマとして有機EL（エレクトロルミネッセンス）ディスプレイに注目。その本格的な普及

## 新中計で成長市場開拓へ

さらに成長分野と見込む自動車市場に対しては、各セグメントが横断的に連絡を密にすることで、このテーマに取り組んでいく。